



島の教会コンサート マリア学園、緑小合同合唱 10月9日

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>

発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

主よ、祈りを 教えてください

主任司祭 眞浦 健吾

「主よ、ヨハネが弟子たちに祈りを教えたように、私たちにも祈ることを教えてください」（ルカ11章1節）と弟子の一人がイエス様に願います。この願いの前の聖書に記述は、「イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わったとき」とあります。弟子たちは、いつでも、どこでも祈りをしているイエス様の姿を見ていました。弟子たちは、祈っているイエス様の姿を見て、何を考え、何を感じたのでしょうか。祈るイエス様の姿を見てみたいと思います。ルカの福音の11章の前半は祈りの力について述べられています。

「うるさい友人」（5節〜8節）
 真夜中に友人の家に行ってパンを貸してくれるように、しつこく頼みます。友人だからという事で貸すのでなく、しつこさゆ

えに彼がもとめるものを貸すにちがいない。「祈りの力」（9節〜13節）求めること、さがしつづけること、たたきつづけること、天の父は求める者に聖霊をあたえてくださる。聖霊は良い物のうちでもっともすぐれたものであるとルカは考えています。祈りは信仰者にとって大切な物であり、祈りをする必要を身に付け、日々実行することが必要です。ですから、弟子たちにイエス様は、祈るときには、「この祈りなさいと言って、「主のいのり」を教えてくださいました。まづ父である神様を賛美すること。私たちの日々の糧を願うように。そして、自分の罪を赦してもらうために、まわりの人の負い目をすべて自分が赦すようにすること。最後に誘惑にあわないように願うこと。この要素が主のいのりに含まれています。一日数多く、この主の祈りを唱えることが出来るようがんばりましょう。

霊名のお祝い

聖ミカエル 眞浦神父様

10月3日(日)、2番ミサの後、神父様の霊名のお祝いの式が行なわれ、子供代表として出口健君がお祝いの言葉を捧げました。

「眞浦神父様、聖ミカエルの霊名の祝日、おめでとうございます。強い、賢い大天使・聖ミカエルの霊名をもらっている神父様。夏の黙想会の時は汗をいっぱいかきながら、お話しを下さいました。運動会の時の応援や、時々のおかしなど、いつも僕たちのことを心にかけてもらい、うれしく思います。ありがとうございます。」

浦頭教会での毎日のミサや、みんなが幸せであるように、みんなが天国に行けるようにと、お話しをしてくださり、とてもありがたく思います。

霊名のお祝い前の一週間は、特別に神父様のためにお祈りを

しました。これからも神父様が健康で過ごせますようにお祈りしています。続けて、僕たち、浦頭教会のみなさんのお世話をよろしくお願い致します。」

神父様からは、「健君が小学校1年の時に浦頭に来て、今年で6年目を迎えました。この間の子供たちの成長を喜んでいきます。これからもがんばりますので、よろしくお願い致します。」とのお言葉がありました。



また、夕方より神羊館にて、祝賀会が開かれ、信徒のみなさんに加えて、地区の方々も集い、共に神父様のお祝いをしました。

防災訓練

―堂崎天主堂―

9月26日、堂崎天主堂では、地元消防団(第五分団 団長濱崎新平、他50名)による防災訓練が行なわれた。



同天主堂は先祖から受け継がれた尊い信仰の遺産であり、当教区にとって子や孫へと伝えて行く上でも今回の訓練は欠かせない訓練であります。この日は堂崎地区信徒は勿論、教会役員40余名が訓練の一役を担った。『想定、堂内の資料展示物中

央から出火、受付係の“火事だ”開始。待機していた消防車3台が出勤し、手際よく機敏な号令のもと放水された。

訓練の後、消火器による取扱方法、消火訓練も行なわれ、防災に対する認識を新にし、地元消防団員の皆さんへ感謝した。



第十九回 純心子供の集い

今年も、第19回純心子供の集いに、8名の子ども達が参加してくれました。今年は『来てみなさい』というテーマで、聖書の中のイエス様の招きについて考えました。ゲームやお話、そして劇など盛り沢山でしたが、一日楽しく過ごすことができました。今年も、子ども達が志願者との触れ合いを喜んでくれたのがとても印象的でした。

さとみちゃんとさちよちゃんと、おともだちになってあそんだのがたのしかったです。またいっしょにあそびたいです。きょうのしすたーはやさしかったです。げきもたのしかったです。

一年 しらはま みく

きょうは、さちよちゃんとたくさんあそびました。たのしかったです。げきのときはまなちゃんに

おしえてもらいました。みんなとごはんや、おやつをたべると、たのしくておいしかったです。

一年 はまさき さやか



今日はみんなでゲームをしました。しんぶんをたたむのは、みくちゃんとかみになりました。みくちゃんはじゃんけんがつよかったです。げきでは、Aはん、Bはんはわかれしました。わたしは、Aはんでした。3人休みだったけど、たのしかったです。

三年 入口 舞桜

今日は、さいしょに絵を描くゲームをしたのと、新聞ゲームが楽しかったです。げきは、『マタイ』の役をしなければよかった、と思いました。おにごっこやゲーム、楽しかったです。

四年 大浦 緋莉

私は今日の純心子ども集いで、さとみちゃんやさちよちゃんと友達になれて良かったです。ミサのなかの劇も少しはずかしかったけど、たのしくできました。また、召命の集いにこれくらいいいなと思いました。

六年 赤尾 鈴香

紙しばいは、ひーちゃんという女の子がいて小さいときにシスターとシスターになると約束しました。シスターになって妹が病気になるので、妹のためにお祈りをしました。わたしも病気の人や世界が平和になるようにお祈りしたいです。

六年 入口 綾乃

今日のゲームは、新聞を折りたたんでいくゲームが楽しかった

です。新聞がとても小さく乗っているのが大変でした。今回は浦頭教会だけでやったけど、志願者のさとみさんや、さちよさんと仲良くできたので良かったです。

六年 谷尾 愛

今日、私は来て良かったと思いました。中学生が私一人というのも、少しさみしい気もしたけど、小学生や志願者の人とも仲が少しずつ深まって良かったです。楽しい一日を過ごすことができました。志願者の二人とシスターたち、楽しい一日をありがとう。

中学一年 大浦 優希

年に一度の子供の集い、子ども達の成長に驚いたり、うれしかったり……。スタッフもとても楽しみにしています。来年も参加をお待ちしています。

いつも快く会場を提供してくださり、一番暑い時間にごミサをささげてくださる神父様、本当にありがとうございます。

純心聖母会 Sr濱崎 久美

奥浦のキリスト教遺産群(Ⅳ)

旧堂崎教会跡と明治期の
カトリック再布教関連施設群

(子部屋跡・男子伝道学校跡・
女子伝道学校跡)

堂崎は一八七三年に禁教の高札撤去直後の九月にパリ外国宣教会フレノー神父が、五島での最初の巡回した地であると伝えられる。一八八〇年にパリ外国宣教会マルマン神父によって、最初の教会堂が建設され、主任司祭が常駐する五島初の主任座教会となった。一八八三年には、奥浦慈恵院の前身の子部屋(養育院・日本の最初期の児童福祉施設)が、大泊から教会堂の近くに移転した。一九〇四年から新聖堂(現・堂崎天主堂)が建設され、一九〇八年には、現在の県指定文化財建造物の堂崎天主堂が完成し献堂された。

一九一四年男子伝道学校、一九一五年女子伝道学校が開校し信徒の教理解と信仰の基礎を

高めた。このように堂崎の地には、現天主堂が建設される前の明治初期から多くの布教施設および福祉施設が建てられた。日本のキリスト教史において、五島列島という信徒数の多い離島部のカトリック復活期の布教システムが色濃く反映された非常に価値の高いこの地の『史跡』は、いつまでも大切にしたい五島キリシタンの記念すべき近世文化遺産である。

堂崎天主堂前にある
マルマン・ペルー両神父の銅像



夕やけマラソン
参加しました

赤尾 章弥

私は夏休みで帰省中に夕やけマラソンに出場の機会を得まして参加しましたところ、いくつもの感動を覚えました。



まだまだ余裕の眞浦神父様

休み中の不摂生な生活のまま練習もせず臨みました。案の定開始10キロで体は限界になりました。後半の10キロはあまり記憶に残ってません。その中でも浦頭小教区のみなさんの応援がとてもしかりました。正直言ってもこんなに応援が力になると思いませんでした。なので来年こ

そは練習して応援に答えられるよう頑張ります。

また地元を離れ学校に通いますが、時々思い出して力にして自分の夢実現のために進んで行きたいと思えます。

来年もちろん参加して苦しい大会から楽しい大会に変えてみせます。来年も温かい応援をよろしくお願いします。



赤尾孝信神父様 追悼ミサにて

8月12日、没後25年を迎えるノルベルト赤尾孝信神父様の追悼ミサが下五島司祭団・小教区出身司祭・先輩、同期、後輩の多数の神父様方に囲まれ行なわれました。

14年の神学校生活を着実にそして誠実に歩み抜き、25年前に4名の同僚司祭とともに叙階の喜びに与った孝信神父様。

その喜びのわずから5ヶ月に引率してきた赴任地浦上教会の侍者会、神学生等の幼き命を救うため、六方の海で天国への道を神様へ捧げられました。

本来なら同期であった4名の司祭団とともに、銀祝の喜びに与かるはずであった神父様。

当日の御ミサの説教では、25年前侍者会の一員として事故にあわれた山田利彦神父様が、その事をきっかけに更に孝信神父様を目標として司祭の道を目指された事を切々と語られました。



いま改めて当時の叙階の喜びと5ヶ月後の海難の悲しみを「島のひかり」を頼りに読み返してみますと、孝信神父様のきまじめで、そして周りへの隣人愛に満ちた御人柄が偲ばれ目頭の熱くなる思いでした。
神学校時代、誰よりも早くミサに向い誰よりも祈りを絶やさなかったという神父様。
浦上教会赴任後は、毎日の御ミサの説教のため深夜遅くまで机に向かっておられたそうです。「わたしの父は今もなお働いて

おられる。だから、わたしも働くのだ」(ヨハネ・5の17)
との叙階記念のカードにしろされた座右の銘を實踐するため、余りに早く、しかしひたすらに天国への道を歩まれた孝信神父様。
私達小教区信徒も孝信神父様の26年の短く、しかし清らかな人生を信仰の模範として語り継がねばならないと思います。

下五島地区中学生 合同黙想会に参加して

竹山 由夏

今年の黙想会は、久賀でありました。許しの秘跡をしてから、何時間もかけて牢屋の窄まで歩きました。みんな、友達といっしょに歩いたり、神父様の話を聞きながらと楽しそうでした。途中、休憩をとりながら、昼に着いた牢屋の窄では、ここで昔何があったのかなどを教わりました。その後は、ミサをして車で帰りました。今年はいつもと場所は違ったけれど、楽しかったです。



秘跡

○永遠のやすらぎを

二〇一〇年七月二十四日
アグネス 入口キクエ 88才 堂崎

二〇一〇年八月二十八日

Sr テレジア 入口フサ子 81才 浦頭

二〇一〇年十月八日

フランシスコ 崎濱與五郎 100才 浦頭

○結婚おめでとう

二〇一〇年十月十日

ヨハネ 宮川 孝行(半泊)
(父・喜一・母・ツタエ)

二股 祐美(下大津)

おたより

いつも活き活きとした温かい
たよりをお届けくださり、有難
うございます。ネタ集め、編集

校正など、大変な作業ですが、
関わったことのない人でなけれ
ばわからない苦労があると思
います。皆さんのそのご苦労に
から感謝しながら、そこからエ
ネルギーをいただいている方々
もたくさんいるのではないでし
うか。長崎市上野町 聖ルド
ヴィコ神学院 濱口末明神父様

故郷を離れて約50年の月日が
流れましたが、帰る度に幼年時
代の頃が思い出されます。

用事があったり約3週間ブラジ
ル（私の第二の故郷）に帰って
先週こちらに戻りました。中村
長八神父様の列福調査も進み、
多くの人たちが偉大な宣教師の
証しを受けて信仰に生きる喜び
を感謝しています。栃木県佐
野市 愛徳カルメル修道女会

Sr 白浜 光恵

浦頭小教区の光を全国に送り
つづけてくださりありがたく思
います。その光に照らされなが
ら、古里の香りを味わっていま
す。ありがとうございます。

伊丹市ロザリオ修道院

Sr 小島エイ子

いつも楽しい記事をありがた
うございます。毎回楽しみに読
ませていただいています。

これからも皆様のご奉仕の上
に神様の祝福が豊かにあります
よう、お祈りしています。

長崎市 Sr 赤尾 綾

毎日、暑い日がつづいていま
すが、皆様方、元気で過ごさ
でしょうか。毎回「島のひかり」
を愛読させてもらっています。
これからも末長くつづく事を願っ
ています。

浜松市 白浜ノリヨ

私共も60才を過ぎ、年金生活
ではあります、とてもとても
この年金だけで生活するのは苦

しい事です。幸いにも健康で看
護師の免許を持っておりますの
で、ありがたく仕事させてもらっ
ております。職業上、日曜日が
休みとはならないもので、教会
へは毎週とは行けません、い
つも忘れる事なく、お祈りは続
けております。元気な今の生活
に神様に感謝です。

長崎市 野口光雄・サヨ子

いつも「島のひかり」お送り
いただき、ありがとうございます。
す。なつかしいふるさとニュー
スとともに、浦頭教会の神父様
をはじめ、信者の皆様の生き
きとした信仰が伝わって来て、
大きな心の支え、よろこびです。
心から感謝申し上げます。

浦頭教会の皆様のためにもお
祈りいたしております。

神奈川県藤沢市

Sr 大川ヨシノ



ありがとう

肌寒さを覚える朝、静かに流
れる風の中に、ほのかに漂うキ
ンモクセイの香りのように、皆
様の島のひかりへの愛の深さが
しみいつてくるようです。

本紙への御協力、感謝申し上
げます。

- 佐野市 白浜 光恵様
- 熊本県 黒丸 美二子様
- 姫路市 高井 タキ子様
- 北九州市 竹山 要様
- 長崎市 濱口 末明神父様
- 三田市 梅木 栄二郎様
- 神奈川県Sr大川 ヨシノ様
- 佐世保市 坂本 砂子様
- 福江市 匿名 名様
- 長崎市 野口 光雄様
- 長崎市 野下 サヨコ様
- 浜松市 白浜 ノリヨ様
- 伊丹市 Sr 小島 エイ子様
- 北九州市 九谷 ミチヨ様

浦頭町内会敬老会

九月二十日、浦頭町内会敬老会が、眞浦神父様の乾杯の音頭を合図に催された。今回は約二十名の参加があった。今年も鍋内班在住の古坂さん夫妻がお祝いに駆け付け、三線の演奏と、楽しいトークに、会場は南国沖繩の雰囲気にも包まれた。

お年寄りという、「自ら外



出することが少なくなり、人と接する機会も少なくなる」といわれますが、出席された顔ぶれを拝見すると、毎週の御ミサで会われる方、趣味の魚釣りで毎日漁に出かける方、毎日犬の散歩をされている方等で、今の時代はこのことばは当てはまらないことを実感した。実際、敬

老会にお誘いするのにも気が引けました。



ここで私の苦い体験をひとつ。

私は、夏の公民館球技大会で、グランドゴルフをお年寄りの方に混じってやっています。今年で三回目でした。最初は「若い(少しだけ)私が入って他の地区の方からクレームが来ないだろうか。ちょっと手を抜いた方がいいかな。」と高をくくっていたところ、かえって私が足を引張ってしまいました。落ち込んでいた私は毎年慰めてもらっています。大変ご迷惑をおかけしております。来年は、少しは練習して頑張りたいと思いますので、来年も仲間に入れて下さい。また来年もたくさんの参加をお待ちしております。

全国大会を終えて

南山中学校 鍵原 永太

8月10日～12日までの九州中学校サッカー大会で勝ち進み、8月18日～23日まで全国大会に出場し、静岡県代表、常葉学園橋中に敗退、全国三位という成績に終わった。



まずはこの成績を残すことができたのは、周りの人の応援や助けがあったからこそだと思っているので、その人達への感謝の気持ちを忘れないようにしたい。

自分が南山に行ったのは、全国で優勝すること、そして高いレベル、良い環境の中でサッカーがしたかったからである。一年の最初の頃は、試合経験を積んでいる選手達が南山にはたくさ

んいたので、状況判断の面ではとても苦労した。でも2、3ヶ月が過ぎたらチームにすっかりとなじむことができた。二年生の時はFWとして試合に出場していたが、三年になったらボランチになった。小学生の時からしているポジションを再びできたことは、とても喜びを感じた。最終的には三位という結果で終わったけど自分はその結果を達成するための道のりにこそ価値があると思う。これからもこの経験を生かしていけるよう努力を続けていきたいと思う。



中段左から3番目が鍵原永太君

「奮り起こせ 奥浦魂」
小中学校合同運動会

九月十九日、じりじりと照りつける太陽の下、初の試みとなる小中学校合同運動会が開催された。少子化、過疎化による子ども達の減少に伴い、お客さんが少ない、保護者の種目が多くなくなり、子ども達の競技をゆっくり見れない、などの問題があたり今回合同で行うことに踏み切った。



開催されるまでには、数々の問題が予想されたが、子ども達の頑張りと指導下さった先生方の努力の賜物とただただ感謝。

走れ 火の玉小僧達

秋晴れの中、奥小の子供達が疾風のごとく快走した。小体連の目玉、四〇〇mリレー。スタートとともに快調に飛び出した大村君の手からバトンが第二走者へ「あっ！」大丈夫だ。渡った!! 壱成がグウーンとスピードを上げ、翔吾へ。奥小テントの大声援の中を体を少し傾斜させながら素早く力強く、回って行く。最後は、歩! 「いっけー!!」がんばれー!!」みんなの気持ちを受け、彼は無人のゴールを駆け抜けた。

速報

十月十四日の五島市中学校駅伝大会で、奥中男子チームは、十七チーム五位。昨年の記録を二分五十二秒縮め、「躍進賞」を獲得。グアッパレ!!

十月六日 五島市 小体連
(結果、三位以内)

- ◎対抗リレー 五年男子 優勝
濱崎壱成、川端 歩
- ◎八〇〇m走 一位 濱崎壱成
大村優輝、平古場翔吾
- 二位 川端 歩
- ◎ソフトボール投 三位 山下風香

鉄球よ! いざこへ...
ペタンク大会 9/21~9/24

恒例のペタンク大会は照明下の奥浦小グラウンドで93チーム約三百名の頂点にイケメン三人組「ニューヨーク」。熱戦は10時をまわることも。まよるいお月様とコートを囲むギャラリィは絶えず、放たれた鉄球に一喜一憂。地域、世代をこえ楽しめるカーリングに似たこの競技「2014長崎国体」にデビューとか...。

試合は勝っても得失点差で予選落ち有り。でも「全員に豪華賞品有り」が売り。閉会式には入賞以外は全チームくじ引き。ビール、伊勢エビ、ヒラス、ゲット多数。「来年もまた!!」を合言葉に閉幕。楽し嬉しの四日間でした。



編集後記

ツクツクボウシも夏の終りを告げ、夜になると秋の虫達が合唱を始めます。店頭には、秋の味覚「なし、ブドウ、新米、サンマ」など、顔を覗かせている。時期が来ると秋は来るのだなあと思う。思い出したくもない今年の夏の猛暑とゲリラ豪雨。人々の挨拶は「毎日、暑かなあ」「よう降るなあ」です。

今日、暑ければ家にはエアコン、車にもエアコン、これに慣れて来ると人は外に出たがらないのです。現代の人々は暑さに対する抵抗力が衰えているのは確かです。

「島のひかり」編集員も八年前位前までは、したたる汗と、鉛筆の先を邪魔する害虫達と格闘しながらの作業でした。今は爽やかな部屋の中で...。でも心だけは冷やさないように「あつたかい」心を持ち続けたいものです。

竹山 要司